佳作

# 私を成長させてくれた海

神奈川県　湘南白百合学園小学校六年　小林　芽生

私は海の近くに住んでいるので、小さい頃から海に親しんできました。しかし、足元には大量のゴミが落ちているのが現状です。その上、はるか昔のゴミや世界中のゴミも海に運ばれてやってきます。更に、海底や海水中にもゴミは散乱しています。私は学校で、海のゴミのせいで海洋生物の命が危険にさらされていると学びました。胃に大量のゴミがつまってしまったウミガメを見た時、私はしょうげきを受けました。私はすぐに両親にそのことを話し、私にできることをしたいと伝えました。そして、早速、ビーチクリーンの活動に家族で参加することになりました。

ビーチクリーンの活動は早朝から始まりました。トングやゴミ袋を持って、朝六時に海岸に着くと、思ったよりも多くの人が参加していてびっくりしました。海のゴミは様々なので、大きさや種類によっていくつかに分別しないとなりません。初めはゴミを拾うたびに、これは何ゴミだろうとなやみましたが、慣れてくると分別が早くなりました。拾っていくうちに、実に様々なゴミがあることにおどろかされました。例えば、クレジットカードや会員証などです。そんな大切な物を落としてしまって大丈夫だったのだろうかと心配になりました。他には、父が子供の頃にしか売っていなかったおかしの袋や外国のおもちゃ、見たことがない大きなサイズのくつなどもありました。このゴミはどこから来たのかなど想像するのは楽しかったです。

ゴミ拾いに夢中になっていた時、涼しい海風が吹いてきてふと顔を上げたら、信じられない光景が広がっていました。車より大きい流木が目の前に横たわっていたのです。こんな巨大な流木を運んでくる海の圧倒的な力に私はただ感動し、思わず立ちすくみました。そして、この海を未来に残さないといけないと強く思いました。「私は今、目の前にあるゴミを拾おう。誰かがやるでなく、私ができることをしよう。見すごすことは決してしない」。そんな気持ちがわき上がりました。

ビーチクリーン活動が終わり、満杯になったゴミ袋をかかえて集合場所へ着くと、集まったゴミの多さにおどろかされました。実は、ここへ来る前は、私一人で何ができるのだろうかと考えたこともありました。しかし、一人一人の力がなくては、このような大きな力にはなれないと分かり、皆と協力できてよかったと思いました。今回、私は、海のために何かしたいと提案し、行動し、皆と協力して目標を成しとげることができました。このことで、私は自信を持つことができました。そして、あの流木を見た時の感動は今でもとてもよく覚えています。あの時の光景と感動は、私を少し大人に成長させてくれたきっかけとして、これからもずっと覚えていたいと思いました。